

YAMAHA ELECTONE[®]

E-70/E-50

取扱説明書

ヤマハエレクトーンE-70・E-50は、ヤマハが、多年にわたる楽器造りの技術と最新の電子技術の粋を集めて完成した、コンソール型の最高機種電子オルガンです。

そのユニークな音づくりのシステムから得られる「生きた音」・「豊かな響き」は

演奏者のハードな要求にも充分お応えできるものと存じます。

演奏にあたりましては、そのシステム、機能の多様さから、あらかじめぜひ

本書をご一読下さいますようお願い申し上げます。

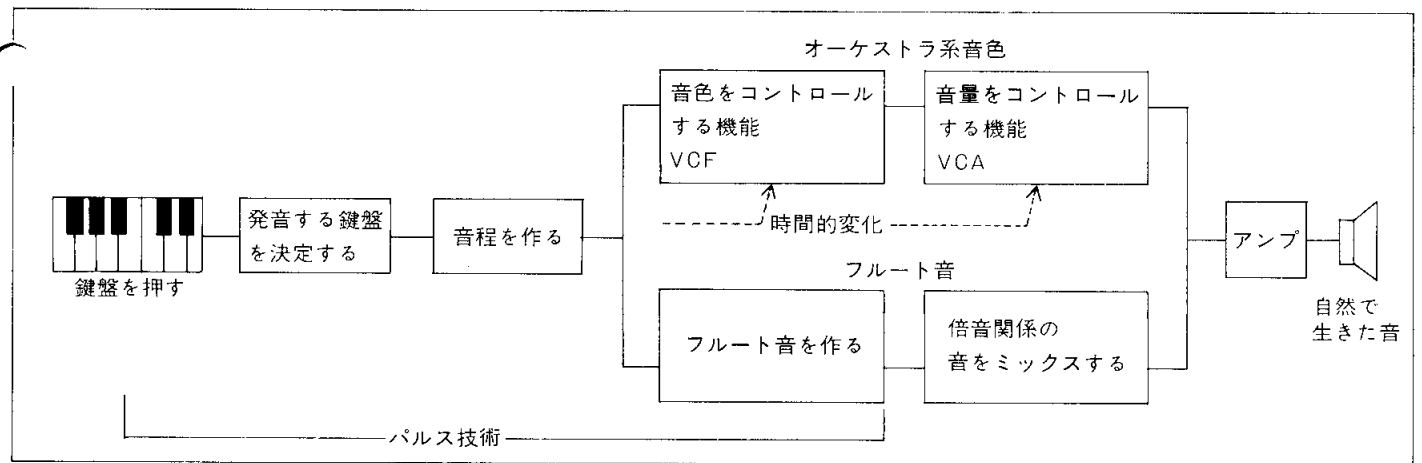
また本書は、末永くご利用、ご保存ください。

自然な音のひろがり	1
基本的な音づくりの手順	4
フルート系音色〔音色をつくる〕	6
〔音を豊かにする〕	7
〔フルート系の音色効果〕	8
オーケストラ系音色〔音色をつくる〕	10
〔音を豊かにする〕	11
〔オーケストラ系の音色効果〕	11
フルート系・オーケストラ系効果音	12
音色プリセット	16
オートリズム	18
オートベース/コード	20
オートアルペジオ	22
付属端子・音のエチケット	26
楽器のお手入れ法	27
次の現象は故障ではありません	28
保証とアフターサービス	30
仕様と音域表	32

自然な音のひろがり

私たちがいつも耳にしている、バイオリン、ピアノ、トランペットなどの自然楽器の音は、音の立ち上がり・持続・減衰といった過程で、音程・音色・音量などが微妙に変化していきます。この音をつくる3要素の時間的変化が、それぞれの楽器の音を性格づける上でたいへん重要な役割を果たしている

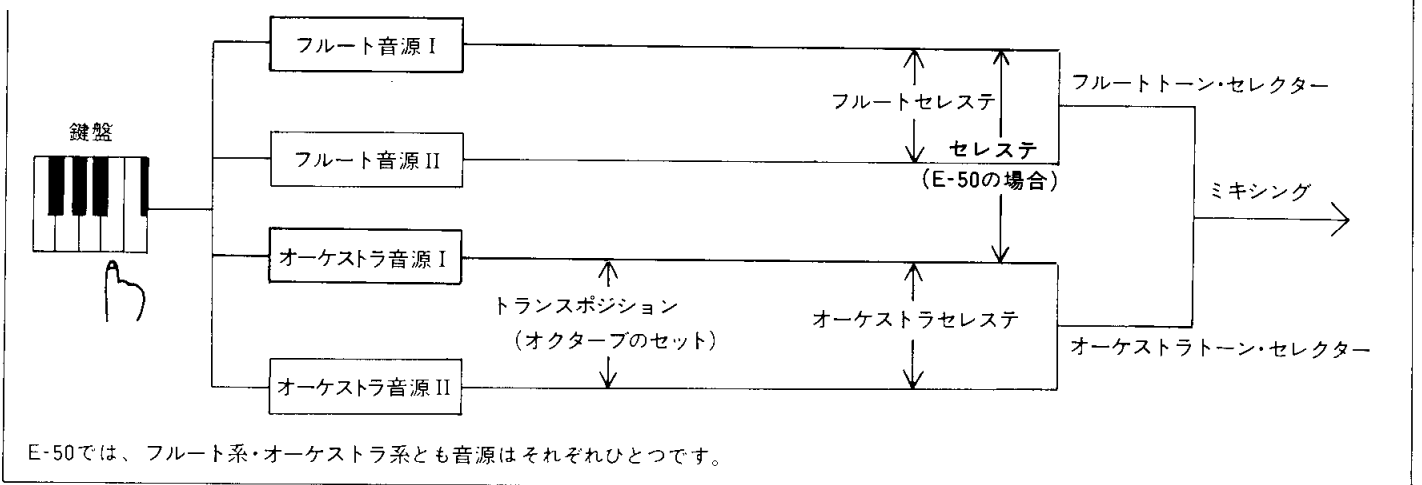
のです。ヤマハエレクトーンE-70・E-50では、オーケストラ系の音色に、この〈音の生命〉が十分にいかされており、「自然で生きた音」を得ることができます。これは、〈音色および音量を時間的にコントロールする〉という独特のシステムをとり入れてあるからです。



また、トーンレバー方式によるフルート系の音色では、きわめて正確なデータを送るデジタル技術を採用しており、従来に比べてさらに純粋で鮮明なフルート系音色を得ることができます。

さらにE-70では、オーケストラ系音色・フルート系音色ともそれぞれ、全く同じ性質をもった2系列の音から構成されているのが大きな特色です。(E-50は音源Iのみ)

〔E-70の音づくり〕



E-50では、フルート系・オーケストラ系とも音源はそれぞれひとつです。

たとえば、ひとつのキーを押すと2つの音源から作られる音が重なり合って厚みのある音を生み出し(セレステ)、この2系列の音をトランスポジション(オーケストラ系音色のみ)などの機能によって、オクターブをずらす事も可能ですので、

音色にさらに巾と厚みを加えることができます。このようにE-70・E-50は、「自然で生きた音」を基本に、さらに新しい音の創造までができる実にユニークで魅力的なエレクトーンです。

E-70

アップーオーケストラトーンセクター (オーケストラ系音色)
(10ページ)

〈フルーツ系音色〉
(6ページ)

アップーオーケストラトーンセクター (オーケストラ系音色)
フリリアンス

アップーオーケストラトーンセクター (オーケストラ系音色)
アタックリビート
アタックレンジス
アタック4
アタック23%
アタック2

フルーツ系音色
フルーツ16'

フルーツ系音色
フルーツ8'

フルーツ系音色
フルーツ5 1/4'

フルーツ系音色
フルーツ4'

フルーツ系音色
フルーツ2 3/4'

フルーツ系音色
フルーツ2'

フルーツ系音色
フルーツ1 3/4'

フルーツ系音色
フルーツ1 1/4'

フルーツ系音色
フルーツ1'

フルーツ系音色
リビートスピード

フルーツ系音色
トランスポジションI

フルーツ系音色
トランスポジションII

フルーツ系音色
オーケストラボリューム

フルーツ系音色
フルーツボリューム

フルーツ系音色
チャイム

アップーオーケストラトーンセクター (オーケストラ系音色)
アタックピッチ・ペダル
アタックピッチ・ロー
アタックピッチ・アッパー
アタックタイム・ペダル
アタックタイム・ロー
アタックタイム・アッパー(グライド)

オートリズム(18ページ)

オートリズム(18ページ)
スタートスイッチ
シンクロススタートスイッチ
リズムセクター
マニュアルバランス
アッパーサステイン

オートリズム(18ページ)
リバーブ

オートリズム(18ページ)
テンポコントロール

オートリズム(18ページ)
オートリズムボリューム

オートリズム(18ページ)
ローサステイン

オートリズム(18ページ)
ペダルサステイン

オートリズム(18ページ)
オートリズムバランス

オートリズム(18ページ)
リズムストップ

オートリズム(18ページ)
アッパー&ローダンパー

オートリズム(18ページ)
アッパーグライド

オートリズム(18ページ)
コーラス

オートリズム(18ページ)
トレモロ

オートリズム(18ページ)
ローオーケストラ(トレモロ)

オートリズム(18ページ)
ローフルーツ(トレモロ)

オートリズム(18ページ)
アッパーオーケストラ(トレモロ)

オートリズム(18ページ)
アッパーフルーツ(トレモロ)

オートベース/コード(20ページ)

オートベース/コード(20ページ)
ノーマル

オートベース/コード(20ページ)
シングルフィンガーコード

オートベース/コード(20ページ)
フィンガードコード

オートベース/コード(20ページ)
カスタムABC

オートベース/コード(20ページ)
コンスタント

オートベース/コード(20ページ)
メモリー

オートベース/コード(20ページ)
ベースバリエーションノーマル

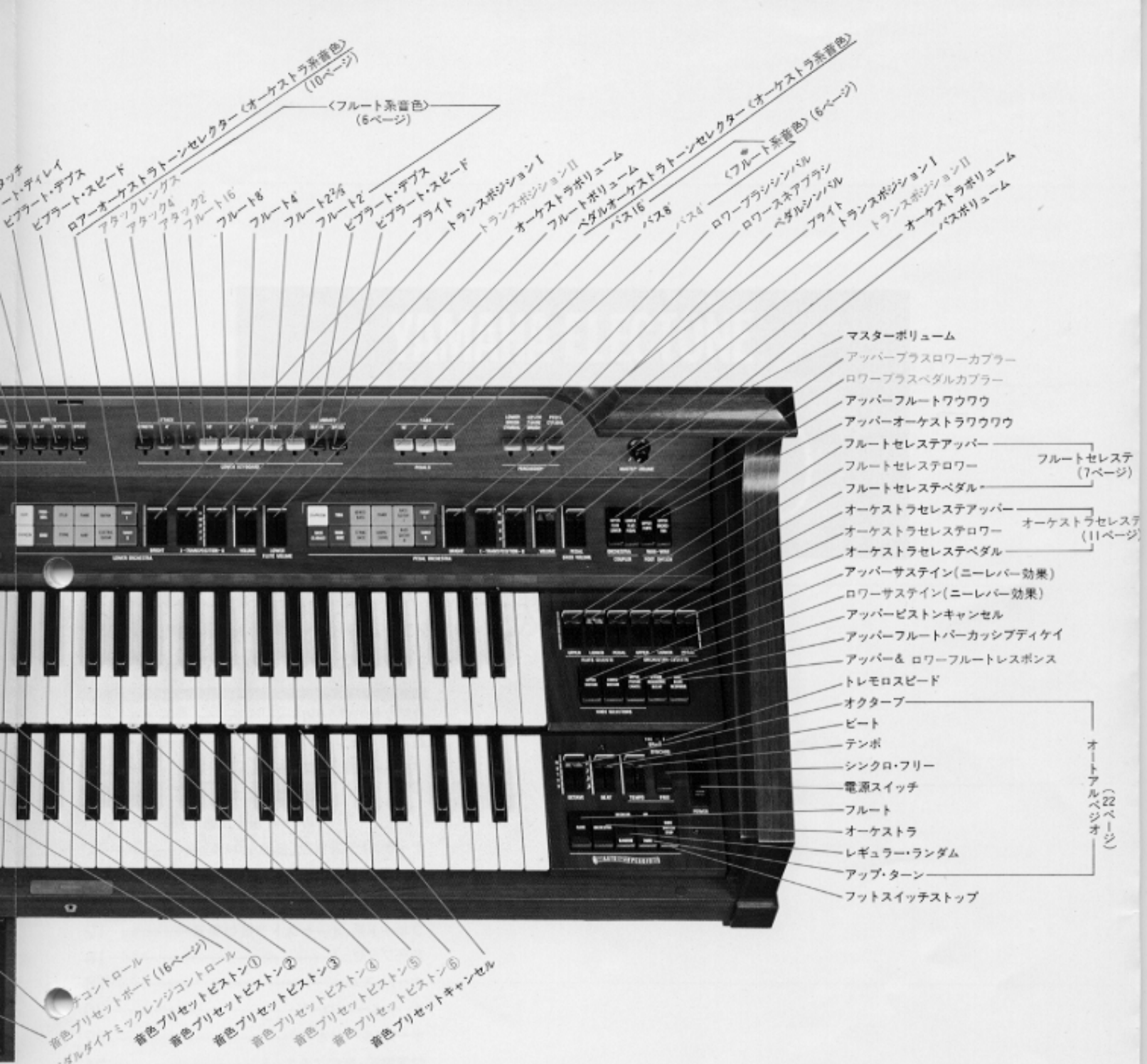
オートベース/コード(20ページ)
ベースバリエーションI

オートベース/コード(20ページ)
ベースバリエーション2



★実際の商品の色調木目は写真と多少異なることがあります。

E-50



3ツチ
オートダイヤレイ
ビブラート・デプス
ローオーケストラトーンセレクター (オーケストラ系音色) (10ページ)
アタックレングス
アタック2
フルート16
フルート8
フルート4
フルート2 3/4
フルート2
ビブラート・デプス
ビブラート・スピード
ブライツ
トランスポジションI
トランスポジションII
オーケストラボリューム
フルートボリューム
ペダルオーケストラトーンセレクター (オーケストラ系音色) (6ページ)
バス16
バス8
バス4

フルート系音色 (6ページ)

フルート系音色 (6ページ)

マスターボリューム
 アッパー・プラス・ロー・カブラー
 ロー・プラス・ペダル・カブラー
 アッパー・フルート・ワウワウ
 アッパー・オーケストラ・ワウワウ
 フルート・セレステ・アッパー
 フルート・セレステ・ロー
 フルート・セレステ・ペダル
 オーケストラ・セレステ・アッパー
 オーケストラ・セレステ・ロー
 オーケストラ・セレステ・ペダル
 アッパー・サステイン (ニーレバー効果)
 ロー・サステイン (ニーレバー効果)
 アッパー・ピストン・キャンセル
 アッパー・フルート・パーカッション・ディケイ
 アッパー & ロー・フルート・レスポンス
 トレモロ・スピード
 オクターブ
 ビート
 テンポ
 シンクロ・フリー
 電源スイッチ
 フルート
 オーケストラ
 レギュラー・ランダム
 アップ・ターン
 フットスイッチ・ストップ

フルートセレステ (7ページ)

オーケストラセレステ (11ページ)

オートアルベジオー (22ページ)

コントロー
 音色プリセットボード (16ページ)
 音色プリセットミックスコントロール
 音色プリセットピストン①
 音色プリセットピストン②
 音色プリセットピストン③
 音色プリセットピストン④
 音色プリセットピストン⑤
 音色プリセットピストン⑥
 音色プリセットキャンセル

★青文字の機能はE-70のみ



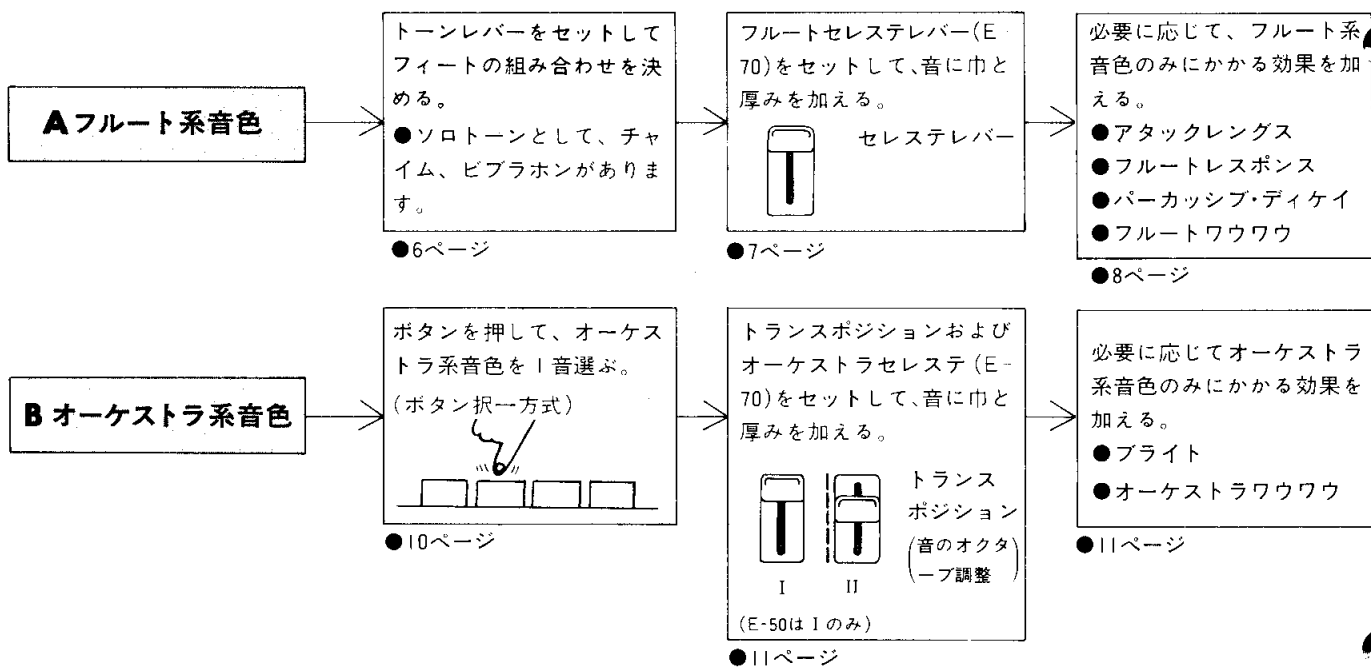
基本的な音づくりの手順

ヤマハエレクトーンE-70・E-50では、上・下・ペダル鍵盤ともそれぞれ、フルート系とオーケストラ系のふたつの音色系統のトーンセクターを備えています。

演奏に際しては、

- ①フルート系音色のみ
- ②オーケストラ系音色のみ
- ③フルート系音色とオーケストラ系音色をミキシングした音の以上3つの音の構成をすることができます。基本的な音づくりの手順は次の図のようになります。

① 音色をつくる ② 音を豊かにする ③ 効果を加える



音色プリセットピストン①-⑥による音色のセット(E-50は①-③)

●16ページ

④ 効果を加える

より楽しい演奏のために

● C ミキシングする場合は

フルート系音色とオーケストラ系音色をミキシングして演奏したい場合は

- フルートボリュームレバー
- オーケストラボリュームレバー

を調整して、それぞれの音量をコントロールする。

必要に応じて、フルート系音色とオーケストラ系音色に共通してかかる効果を加える。

- ビブラート
- アタックピッチ (E-70)
- アップーグライド
- Uプラス Lカブラー (E-70)
- Lプラス Pカブラー (E-70)
- サステイン
- ダンパー
- トレモロ/コーラス
- プリリアンス
- リバーブ
- パーカッション

● 12ページ

E-50のセレステは、フルート系音色とオーケストラ系音色との組み合わせになります。

オートリズムで曲想にあったリズムをつける。

● 18ページ

オートベース/コードで、自動伴奏にする。

● 20ページ

オートアルペジオで下鍵盤の音をアルペジオ効果にかえる。

● 22ページ

運動します。

運動します。

一部運動します。

● なお、FLUTE VOLUMEレバー、ORCHESTRA VOLUMEレバーがセットされていないと、フルート音、オーケストラ音ともに出ませんのでご注意ください。

● E-50のセレステは、フルート、オーケストラ系音色とも各1音源なので、個々のセレステはついていません。フルート、オーケストラ系音色との組み合わせになります。

● E-70・E-50では、音の優先順序が次のように決まってい

ます。

フルート系音色 < チャイム < ビブラホン < プリセットピストン音色
オーケストラ系音色

たとえば、フルート音色のトーンレバーをセットしておいても、チャイムのレバーが入っているとフルート音色はキャンセルされます。

フルート系音色

1 音色をつくる

まず、トーンレバーをセットして、フルート系音色の基本となる音色をつくります。トーンレバーは、ソロトーン（チャイム、ビブラホン）以外はカブラー効果による音の組み合わせができます。レバーは下に押し下げるほどその音量が大きくなります。

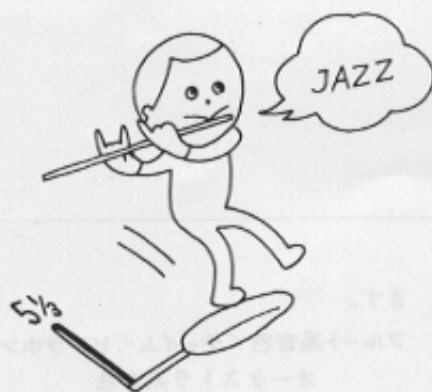
各鍵盤のトーンレバー

		E-70	E-50
上 鍵盤	フルート音	16', 8', 5 $\frac{1}{2}$ ', 4', 2 $\frac{3}{4}$ ', 2', 1 $\frac{3}{4}$ ', 1 $\frac{1}{4}$ ', 1'	16', 8', 5 $\frac{1}{2}$ ', 4', 2 $\frac{3}{4}$ ', 2'
	アタック音	4', 2 $\frac{3}{4}$ ', 2'	4', 2 $\frac{3}{4}$ '
	ソロトーン	チャイム, ビブラホン	チャイム, ビブラホン
下 鍵盤	フルート音	16', 8', 4', 2 $\frac{3}{4}$ ', 2'	8', 4', 2 $\frac{3}{4}$ ', 2'
	アタック音	4', 2'	なし
ペダル鍵盤	バス音	16', 8', 4'	16', 8'

純粋であざやかなフルート系音色は、トーンレバーの組み合わせによって、さまざまな美しい音色表現をすることができます。

たとえば、

- ①フルート音のトーンレバーをぜんぶ入れ、これにフルートセレステをセットすれば重厚なパイプオルガンの音に。
- ②フルート5 $\frac{1}{2}$ 'を加えた音の構成(例：フルート16' + 8' + 5 $\frac{1}{2}$ ')にアタック音2 $\frac{3}{4}$ 'をプラスすれば歯切れのいいジャズオルガンの音が得られます。



NOTE

- フルート系とソロトーン系のレバーを同時に入れた場合は、ソロトーンが優先となります。また、ソロトーンのCHIMEとVIBRAPHONEでは、VIBRAPHONEが優先します。
- 音色プリセットピストン①②③⑥(⑥はE-70のみ)のどれかが押されていると、上、下、ペダル鍵盤の音はプリセット音に変わります。また、④⑤(E-70のみ)のどちらかが押されていると上鍵盤の音はプリセット音に変わります。
- フルート系音色は、上、下鍵盤あわせて、鍵盤を押した順に計11音まで音が出せます。

2音を豊かにする

フルートセレステ (E-70)

セレステとは、2音源のピッチを微妙にずらし、音にうなりを生じさせ、巾と厚みを加える効果のことです。

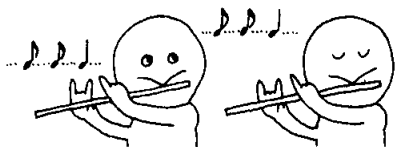
トーンレバーのセットでつくった、フルート系音色はさらに、フルートセレステ効果を加えて、深みとひろがりのあるより豊かな音色にすることができます。たとえば、何人かで、「フルート」の合奏をした場合、ひとりで吹いたときよりもさらに厚みのある(自然な音のうねりをもった)音にすることができます。フルートセレステは、このような効果をフルート音色に加えるものです。セレステレバーは4ヶ所にセット(軽い手ごたえがあるクリック・ストップ)でき、また、上、下、ペダル鍵盤のフルート系音色に別々にかけることができます。レバーを手前にセットするほど、セレステ効果は大きくなります。

- フルート系の音色は2つの同じ性質の音からつくられています。



ピッチの高さが同じ音はやせた感じですが。

- フルートセレステはこの2つの音を微妙に変化させ、音に、巾と厚みを加えます。



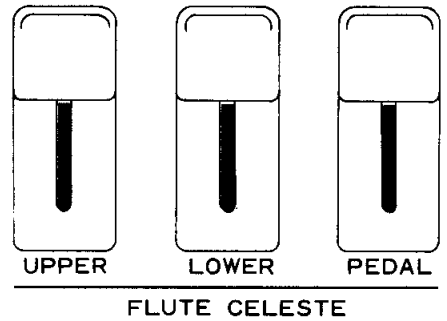
ピッチの高さを変えるとうなりが生じて豊かな響きに。

- E-50のセレステは、フルート系音色(1音源) オーケストラ系音色(1音源)の2音源間にはたらいて、音に巾と厚みを加えます。



フルート音 オーケストラ音

※オーケストラ系音色のセレステ効果も、フルートセレステと同じです。



セット位置は4ヶ所です。図はE-70です。

3フルート系の音色効果

フルート系の音色にかかる効果として次のようなものがあります。

アタック音への効果（上鍵盤・下鍵盤）

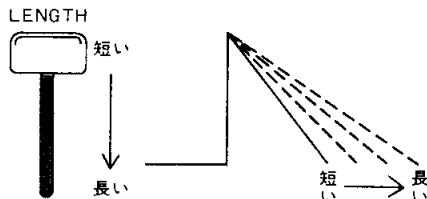
アタック音のためのエフェクトレバーとして、●LENGTH ●REPEATのふたつがあります。これらのレバーを操作して、あらかじめセットしてあるアタック音に右のような効果を与えることができます。なお、下鍵盤にかかるのはそのうちの効果①のみです。また、E-50では下鍵盤への効果はかかりません。

ふつうのフルート音は持続音(同じ音の連続)です。



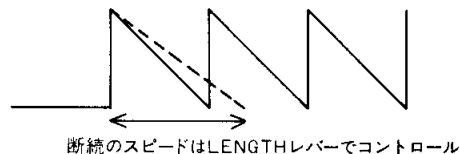
これにアタック音を加えると、音の立ち上がりが早くなり、歯切れのいい軽快な音となります。

効果① LENGTHレバーでアタック音の減衰時間をコントロールすることができます。



効果② LENGTHレバーとREPEATレバーを組み合わせると、次のような効果をつくることができます。

A：アタック音をマンドリンのような断続音にすることができます。



B：アタック音は、1音1音が独立していますので、ひとつのキーを押し続けていても次のキーを押すと音は出ます。ですから、LENGTHとREPEATのレバーを入れておいて2つのキーを順番に押した場合、音は、おさえたタイミングによって、それぞれが独立してあとを追うようにくり返されます。



NOTE

●アタック音には、フルートセレステ・トレモロ/コーラス効果がかかりません。

フルート・レスポンス (上鍵盤・下鍵盤とも共通)

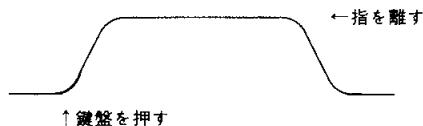
フルート音色は、厳密にいうと、鍵盤を押してからゆるやかに音が出るようになっています。ですが、UPPER AND LOWER FLUTE RESPONSEのタブレットを入れると、鍵盤を押してから音の立ち上がり立ち下がりがはやくなります。

パーカッシブ・ディケイ (上鍵盤のみ)

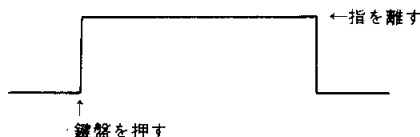
フルート音色は、鍵盤を押してから指を離すまでの間が、同じ音の連続、つまり持続音です。ですが上鍵盤の場合、UPPER FLUTE PERCUSSIVE DECAYのタブレットを入れると、鍵盤を押した後、フルート音だけを減衰させることができます。オーケストラ系音色とあわせて使うと面白い効果が得られます。

[音の比較]

●フルート音色のみ

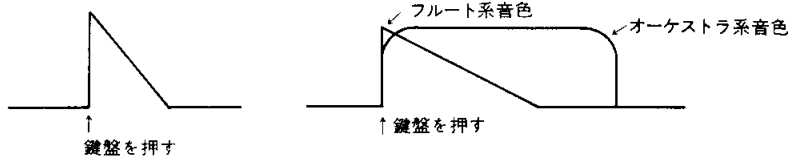


●フルート・レスポンス効果



●パーカッシブ・ディケイ効果

オーケストラ系音色とあわせるとき↓



トレモロ/コーラス

フルート系の音色にトレモロ効果をかけることができます。
15ページ参照

ワウワウ

フルート系の音色に「ワウワウ」といった音色の変化を与えることができます。

15ページ参照

フルートボリューム

フルート系音色の音量をコントロールすることができます。
オーケストラ系音色とミキシングをする場合も利用します。

オーケストラ系音色

1 音色をつくる

まず、オーケストラ系音色のトーンセレクターのなかから1音を選んでセットします。これがオーケストラ系音色の基音となります。(ボタンを2個以上セットして音を組み合わせることはできません)。オーケストラ系音色のボタンは、楽器の種類によって右のように色分けされています。

白いボタン——フルート・ディアパソン (エレクトーンの電源スイッチを入れると、つねにこの“フルート”が自動的にセットされます。)(E-50のペダル鍵盤はチューバにセットされます。)

赤いボタン——管楽器

黄色いボタン——弦楽器

緑色のボタン——シンセサイザー的な新しい音色

各鍵盤のオーケストラ系音色トーンセレクター()内はあらかじめセットされている音程(トランスポジションNのときの音程)で、表ではフィートとして表示しました。

	E-70		E-50	
上 鍵盤	フルート(8')	クラリネット(8')	フルート(8')	トロンボーン(16')
	トロンボーン(16')	トランペット(8')	トランペット(8')	サクソフォン(16')
	ポストホルン(8')	サクソフォン(16')	オーボエ(8')	バイオリン(8')
	オーボエ(8')	キヌラ(8')	ピアノ(8')	ハーブシコード(8')
	バイオリン(8')	ストリング(8')	ジャズギター(16')	ハーブ(8')
	ピアノ(8')	ハーブシコード(8')	ファニー I (8')	ファニー II (8')
	ジャズギター(16')	エレクトリックギター(16')		計12音
	バンジョー(8')	ハーブ(8')		
	ファニー I (8')	ファニー II (8')		
		計18音		
下 鍵盤	フルート(8')	ディアパソン(8')	フルート(8')	トロンボーン(8')
	トロンボーン(8')	ホルン(8')	ホルン(8')	チェロ(8')
	チェロ(8')	ストリング(8')	ピアノ(8')	ハーブ(8')
	ピアノ(8')	ハーブ(8')	ギター(8')	ファニー I (8')
	ギター(8')	エレクトリックギター(8')		計8音
	ファニー I (8')	ファニー II (8')		
		計12音		
ペダル鍵盤	ディアパソン(16')	バスクラリネット(8')	チューバ(8')	トロンボーン(8')
	チューバ(8')	トロンボーン(8')	ポウドバス(16')	ストリングバス(8')
	ポウドバス(16')	ストリングバス(8')	バスギター I (8')	バスギター II (8')
	ピアノ(8')	ハーブシコード(8')		計6音
	バスギター I (8')	バスギター II (8')		
	ファニー I (8')	ファニー II (16')		
		計12音		

NOTE

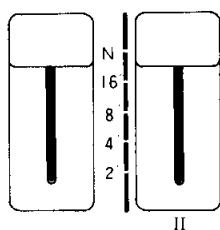
●オーケストラ系音色は、上、下鍵盤ともそれぞれ、鍵盤を押した順に計7音まで音が出せます。

●トーンセレクターの優先順序は向って右側及び下側が優先されます。

2音を豊かにする

トランスポジション

オーケストラ系の音色はそれぞれが、あらかじめ決められた音程(フィート)にセットされています。(左ページ表・参照)トランスポジションは、この音程をオクターブ単位で変化させます。E-70にはTRANSPOSITIONレバーが2つありますので、IとIIのレバーを別々の音程にセットして、組み合わせる(カブラー効果)こともできます。これは、フルート系の音色をセットするとき、たとえば16'と8'などといったトーンレバーを組み合わせるのに似ています。



TRANSPOSITIONレバー
セット位置はNから2'までの5ヶ所です。

(E-70のみ)

レバーのセット位置と出てくる音のフィートとの関係

レバー セット位置	出てくる音は	上鍵盤のオーケストラ系音色 トロンボーンに例をとると。 (プリセットされている音程 は16')
N	オーケストラ系音色にプリ セットされている音程その まが出ます。	16'の音が出ます。
16'	16'の音が出ます。	16'の音が出ます。
8'	8'の音が出ます。	8'のトロンボーン音。
4'	4'の音が出ます。	4'のトロンボーン音。
2'	2'の音が出ます。	2'のトロンボーン音。

オーケストラセレステ(E-70)

セレステの効果については、7ページの〈フルート・セレステ〉の項で詳しく説明しています。ただし、オーケストラ系音色の場合、トランスポジションI・IIのセットに大きなオクターブ間の差があると、フルート音色のときほどはっきりしたセレステ効果がかからないことがあります。

これはセレステ本来の効果が、同じ性質をもった音(同じオクターブであることが望ましい)に対して十分に発揮されるということにあるからです。

- 管楽器系の音にセレステ効果を加えると
→あたたかみと深みのある音になります。
- 弦楽器系の音にセレステ効果を加えると
→やわらかで、なめらかな音になります。

3オーケストラ系の音色効果

ブライツ(上・下・ペダル鍵盤)

各鍵盤用にそれぞれBRIGHTレバーがあります。BRIGHTレバーはふつう、中央の軽い手ごたえのある位置にセットしておきます。レバーをこれより奥にセットすると音色全体が暗い感じになり、手前に引くと明るくきらびやかな感じになります。ブライツ効果は、音の変化の巾が大きいので少しずつ調整したほうがよいでしょう。

リピートスピード(上鍵盤)

上鍵盤のオーケストラ音を、歯切れのよい断続音にすることができます。レバーを手前に押し下げるほど、短い音の断続になります。とくにBANJOで効果的です。

トレモロ/コーラス

オーケストラ系の音色にトレモロ効果をかけることができます。15ページ参照

ワウワウ

オーケストラ系の音色に“ワウワウ”といった音色の変化を与えることができます。15ページ参照

オーケストラボリューム

オーケストラ系音色の音量をコントロールすることができます。フルート系音色とミキシングするときにも利用します。

フルーツ系・オーケストラ系効果音

ビブラート (上鍵盤・下鍵盤)

音をこきざみに震わせる効果で、レバーの操作によって次の3種類のビブラートをつくりだすことができます。

① ノーマルビブラート

普通のビブラート効果です。かけかたは、DEPTHレバーでビブラートの深さを、SPEEDレバー (E-50では上、下鍵盤に共通) でビブラートの速さをそれぞれコントロールします。上、下鍵盤の音色に (別々に) かけることができます。

② ディレイビブラート (上鍵盤のみ)

ディレイ (DELAY) ビブラートとは、鍵盤を押してからある時間遅れてビブラートがかかる効果をいいます。使いかたとしては、オーケストラ系音色のトランペットやバイオリンにかけて、その楽器特有の微妙な音の響きをつくりだすのもひとつの方法です。ディレイビブラートのかけかたは次のとおりです。

● まず DELAYレバーを入れます。

DELAYレバーは、ビブラートがかかるまでの遅れ時間をコントロールするレバーです。また、このレバーを入れると同時にビブラートの深さも一定にセットされます。

● DEPTHレバーでさらに深いビブラートが得られます。

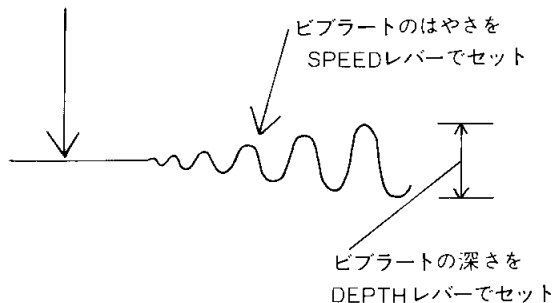
DELAYレバーを入れただけの状態よりもビブラートの深さを増したいときは、このレバーでコントロールします。ただしこの場合は、ビブラートの深さをDELAYレバーのときよりも大きくするわけですから、レバーを $\frac{1}{2}$ 以上に入れてください。

● SPEEDレバーでビブラートの速さをセット。

レバーを手前にセットするほど、速いビブラート効果が得られます。

ディレイビブラートでは、しばらくしてビブラート効果がかかります。

ビブラートがかかるまでの時間は
DELAYレバーでコントロール



バイオリンの、ふるえるような
あの、デリケートな響き…

ディレイビブラートはこのような
楽器音の表現としてもユニークです



③ タッチ・ビブラート (上鍵盤のみ)

タッチ・ビブラートでは、TOUCHレバーでビブラートの深さを決め、鍵盤をおさえる指の横方向 (左右) の動きによってビブラートをつくりだします。したがってビブラートの速さは、指の動く速さによって決まります。

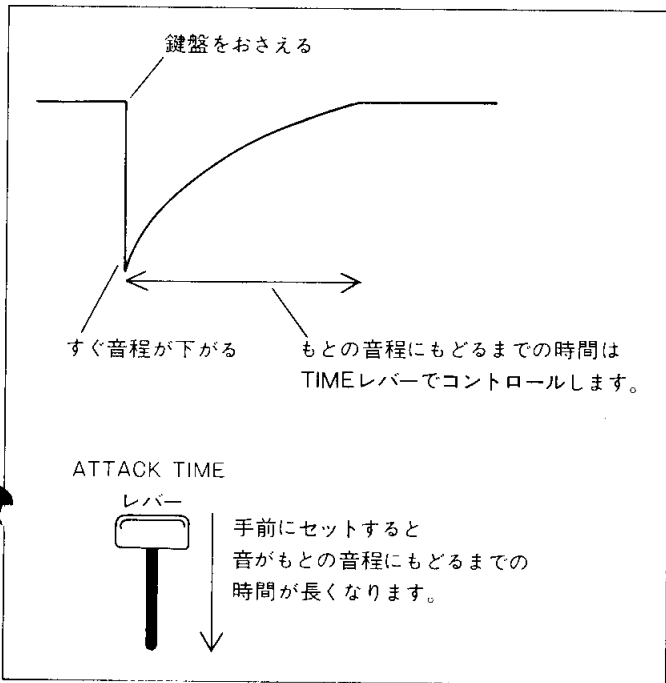
なお、このとき、DELAYレバーまたはDEPTHレバーが少しでも入っているとタッチ・ビブラート効果はキャンセルされますのでご注意ください。また、タッチ・ビブラートにはSPEEDレバーの効果はかかりません。

NOTE

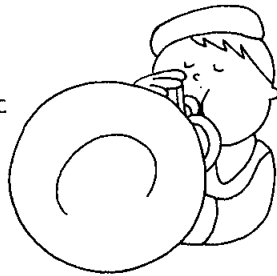
● 以上3つのビブラート効果は、次のようにその優先順序が決まっています。タッチビブラート < ノーマルビブラート < ディレイビブラート

アタック・ピッチ(E-70、上・下・ペダル鍵盤)

鍵盤を押した瞬間、自動的に音程が下がり、ある時間たつて徐々にもとに戻る効果です。音程の下り巾は半音にプリセットされていますが、復帰時間はATTACK TIMEレバーでコントロールします。なお、ATTACK TIMEレバーが入っていない状態では復帰時間が早くアタックピッチ効果は聞きとりにくくなります。アタックピッチ効果を利用してファンキーなペダル音をつくることもできます。また、金管楽器などの音の立ち上がりの効果に使えば、より自然楽器に近い表現ができます。

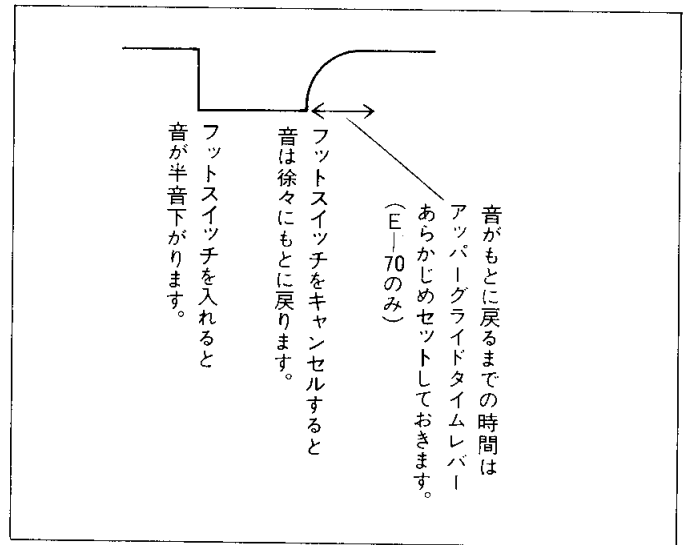


金管楽器などの音の立ち上がりの表現に

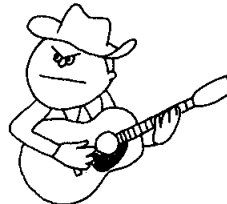


グライド(上鍵盤、フットスイッチ効果)

音を半音下げる効果です。このグライド効果を上手に利用して、ウエスタンギターやハワイアンギター的な音をつくることもできます。かけかたは(E-70の場合)、UPPER GLIDEタブレットを入れ、UPPER GLIDEレバー(アタックピッチのいちばん左側にあります)をセットして音程がもとに戻るまでの時間をあらかじめ決めておきます。(E-50ではこの時間はあらかじめセットされています)このようにしておいて、演奏中、鍵盤を押したままフットスイッチを操作すると、その瞬間に音が半音下がり、フットスイッチをキャンセルすると、また音程が序々にもとに戻ります。フットスイッチの操作については15ページを参照してください。



ウエスタンギターや
ハワイアンギターなどの音の表現に



NOTE

- アタックピッチ及びグライド効果をかけている間は、上鍵盤にビブラート効果はかかりません。
- フットスイッチ操作中は、アタックピッチ効果はかかりません。復帰中に鍵盤を離してすぐ押せば、そのときからアタックピッチ効果に切りかわります。

カプラー(E-70)

①UPPER PLUS LOWERタブレット

このタブレットを入れると、上鍵盤を押して下鍵盤でセットしたオーケストラ系の音色と上鍵盤の音を重ねあわせて出すことができ、より厚みのある音にすることができます。この場合、重ねられる下鍵盤の音色の基本音源波形、又は音程に関する効果(グライド、アタックピッチ、トランスポジション、セレステ、ビブラートetc)は、上鍵盤用のレバーに従属させられます。ただし、下鍵盤用のブライト、ボリューム、サステイン、トレモロなどの効果はそのまま重ねることができます。従って音の組み合わせによっては組み合わせ効果の薄いものもあります。下鍵盤の音色はフルート系音色のみとなります。

②LOWER PLUS PEDALタブレット

このタブレットを入れますと、ペダル鍵盤のすべての音を下鍵盤のC~C₁(左から2オクターブ)の間で出すことができます。ただしこの場合、重ねられたペダル鍵盤の音は単音です。下鍵盤に移ったペダル鍵盤音のコントロールおよびエフェクトはペダル鍵盤用のレバーに従属させられます。また、このとき、下鍵盤の音色ボリュームを0にしてこの効果を使うと、ベースの速いパッセージを下鍵盤で弾くことができます。

サステイン(上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤)

●SUSTAINレバーによって、各鍵盤別々にサステインをかけることができます。レバーを右に回すほど、サステイン効果が大きくなります。フルート音色には、1'~16'まですべての音にかかります。

●ニーレバー効果(上鍵盤・下鍵盤のみ)でもかけられます。サステインの長さをあらかじめサステインレバーによってセットし、UPPER(またはLOWER)SUSTAINのタブレットを入れておきます。このようにして、演奏中ニーレバーを入れますと、任意にサステイン効果をかけることができます。

ダンパー

(上鍵盤・下鍵盤、フットスイッチ効果)

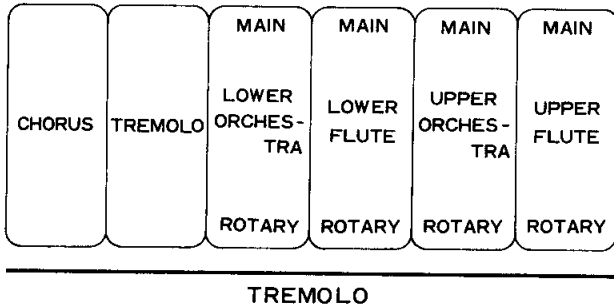
SUSTAINレバーでは各鍵盤別にサステインをかけますが、ダンパーでは演奏中、上・下鍵盤に共通して、任意にサステインをかけることができます。ダンパー効果は、DAMPERタブレットをONし、さらにFOOT SWITCHを操作することによって得られます。ただし、SUSTAINタブレットがONされているときにDAMPERタブレットをONしますと、SUSTAINタブレットの効果はキャンセルされます。この場合は、DAMPERタブレットを入れたままFOOT SWITCHを操作すると、ダンパー効果によるサステインが得られます。

NOTE

●LOWER PLUS PEDALタブレットをONにするとペダル鍵盤を押しても音は出ません。

●上鍵盤のソルトーン、VIBRAPHONEレバーが入っているときにDAMPERタブレットをONすると、鍵盤を離れたときに音がすぐ切れます。しかし、さらにフットスイッチを入れると音はもとの状態にもどります。CHIMEにはダンパー効果は無関係です。

トレモロ/コーラス(上鍵盤・下鍵盤)



上鍵盤、下鍵盤ともそれぞれフルート系音色とオーケストラ系音色にトレモロ効果をかけることができます。遅いトレモロ効果をかけたいときは、コーラスタブレットのみを入れます。また、トレモロのスピードはTREMOLO SPEEDのつまみによってコントロールすることができます。

ワウワウ(上鍵盤・フットスイッチ効果)

WAH WAHのタブレットを入れておきますと、演奏中、エクスプレッションペダルを左右に操作することにより、上鍵盤の音にワウワウといったファンタスティックな音色の変化を与えることができます。(左でソフト、右でプリリアント)ワウワウ効果は、オーケストラ系音色とフルート系音色は別別にかけることもできます。またE-50は鍵盤を押した瞬間に自動的にかけられます。

プリリアンス(上鍵盤・下鍵盤)

音色全体をきらびやかで明かるい感じにします。レバーを下げるほど、その効果が大きくなります。但し、音色によってかかり方が弱いものもあります。

リバーブ(上鍵盤・下鍵盤)

REVERBレバーはOFFがノーマルのセット位置です。レバーを右に回すにつれて全体の残響効果が大きくなり、左に回すとその反対になります。

パーカッション(下鍵盤・ペダル鍵盤)

鍵盤音に打楽器系の音をミックスさせることができます。パーカッションのレバーは3段階のクリックストップ式で、下鍵盤にはブラシ・シンバルとスネア・ブラシの音を、ペダル鍵盤にはシンバルの音をそれぞれミックスすることができます。

マニュアル・バランス(上鍵盤・下鍵盤)

上鍵盤と下鍵盤の音のバランスをとるレバーで、このレバーを右に回すほど、上鍵盤の音が強調されます。

ペダル・ダイナミック・レンジ・コントロール(E-70、ペダル鍵盤)

全体のエレクトーンサウンドのなかでペダル音にとくにアクセントをつけたいときはこのボタンを押してエクスプレッションペダルをまったく踏んでいない位置に戻してください。

マスター・ボリューム

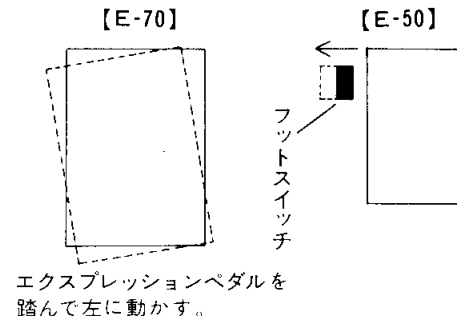
エレクトーン全体の音量をコントロールすることができます。

エクスプレッションペダル

演奏中の音に強弱変化をつけることができます。

フットスイッチについて

フットスイッチは、エクスプレッションペダルを足先で左に少し強く動かすようにします。(左のみで作動)



ピッチコントロール

音色プリセットボードの右上にあり、他の楽器とアンサンブルをするときのピッチ調整が簡単にできます。右に回すとピッチが上がり、左に回すとピッチが下がります。16ページ参照

音色プリセット

演奏中、プリセットピストンを押すことにより、鍵盤音をすばやく切り替えさせることができます。音色プリセットピストンのうち、①・②・③は、あらかじめ決められた音色がすでにプリセットされています。④・⑤(E-70)はプリセットボードで上鍵盤の音色をセットすることができます。⑥(E-70)は上、下、ペダル鍵盤の音をプリセットボードでセットします。

●ピストン①・アタックのきいたジャズオルガンのな音色です。

音の構成	アッパーフルート	16'・8'・5 1/8'
	アッパーアタック	2 3/8'
	ロアーフルート	8'・4'
	ペダルバス	8'

●ピストン②・奥行きのあるフルオルガンのな音色です。

音の構成	アッパーフルート	16'・8'・4'・2'・1'
	ロアーフルート	8'・4'・ホルン(N)
	ペダルバス	16'

●ピストン③・シアターサウンド的な音色です。

音の構成	アッパーフルート	16'・8'・4'・2'
		1'・バイオリン(8'・4')
	ロアーフルート	8'・4'・チェロ(N)
	ペダルバス	16'・8'

●ピストン④ (E-70) ボードバス(N)

プリセットボードで上鍵盤の音色をあらかじめセットしておくことができます。

●ピストン⑤ (E-70)

プリセットボードで上鍵盤の音色をセットすることができます。

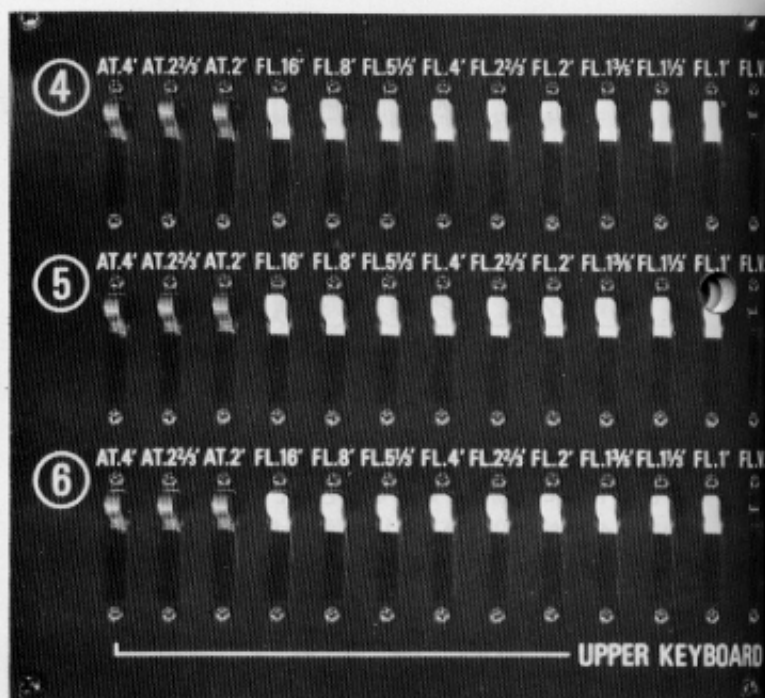
●ピストン⑥ (E-70)

プリセットボードで上、下、ペダル鍵盤の音色をセットすることができます。

★E-50の音の構成は上記と多少異なります。

音色プリセットのキャンセル

右側のピストンⓐを押すことによってキャンセルすることができます。また、演奏中、部分的にキャンセルして普通の演奏に切りかえたいときは、UPPER PISTON CANCELのタブレットを入れ、ニーレバーをかければプリセット音を部分的にキャンセルできます。つまり、プリセット音とコントロールパネルの音を交互にきりかえて演奏することができます。



NOTE

- プリセット④～⑥はフルート及びオーケストラ・ボリュームレバーもセットしないと音は出ません。
- 音色プリセットピストンを押しているときもパネルの時と同じように効果がかけられます。
- プリセットボード内右上のつまみPITCHは、エレクトーンのピッチ調整のためのものです。15ページ参照
- E-50は上鍵盤のみにかかり、音の構成も多少ちがいます。

OR.V

VOL.V	STRING	PIANO	BRI.	T.P.I	T.P.II
KIMURA		HARPSI.		-N-	
ONCE		JAZZ G.		-16-	
SAX.		ELECT. G.		-8-	
POST.		BANJO		-4-	
TRUM.		HARP		-2-	
TRUM.		FUNNY I			
CL.A.	FLUTE	FUNNY II			

PITCH

PEDALS

BA.16'	BA.8'	BA.4'	BA.V.	OR.V	S. BASS	PIANO	HARPSI.	BRI.	T.P.I	T.P.II
					B. BASS		B.G.I		-N-	
					TRUM.		B.G.II		-16-	
					TUBA		FUNNY I		-8-	
					B. CL.A.		FUNNY II		-4-	
					DIAPA.					

OR.V

VOL.V	STRING	PIANO	BRI.	T.P.I	T.P.II
KIMURA		HARPSI.		-N-	
ONCE		JAZZ G.		-16-	
SAX.		ELECT. G.		-8-	
POST.		BANJO		-4-	
TRUM.		HARP		-2-	
TRUM.		FUNNY I			
CL.A.	FLUTE	FUNNY II			

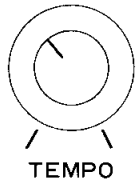
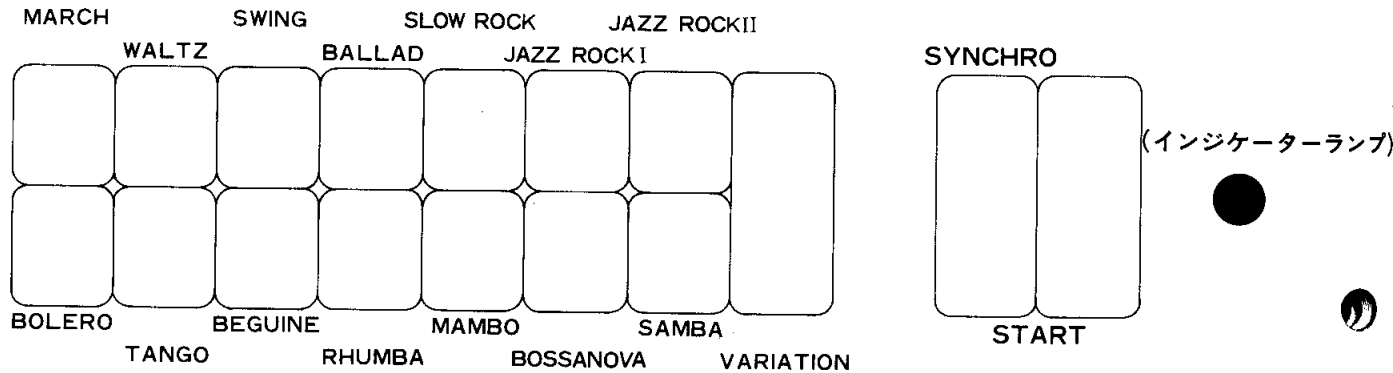
AT.4' AT.2' FL.16' FL.8' FL.4' FL.2 1/4' FL.2' FL.V.

OR.V

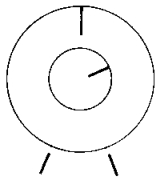
STRING	PIANO	HARP	BRI.	T.P.I	T.P.II
CELLO		GUITAR		-N-	
HORN		ELECT. G.		-16-	
TRUM.		FUNNY I		-8-	
DIAPA.		FUNNY II		-4-	
FLUTE				-2-	

LOWER KEYBOARD

オートリズム



TEMPO



VOLUME — ● — BALANCE

オートリズム(自動リズム伴奏)のリズムパターンには全部で14種類があり、シンバル、ドラム、ボンゴなどの楽器音で歯切れのよいリズムをきざみます。これにさらにリズムバリエーションを加えれば、何通りものリズムをつくりだすことができます。また、リズムは複数の組み合わせをすることができます。その場合は、リズムセレクターを必要な数だけ押し、同時に指をはなしてください。

オートリズムのなしかた

① スタートスイッチ (START)

右のスタートスイッチをONにしておくと、リズムを自動的に第1拍目からスタートさせることができます。

② シンクロスタート・スイッチ (SYNCHRO)

ONにしておくと、下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえた時点でリズムがスタートします。

③ リズムセレクター

お好きなリズムをセットしてください。演奏の途中で他のリズムに変えたいときは、次のリズムセレクターを押せば自動的に前のリズムがキャンセルされます。

④ テンポインジケータランプ

ランプに赤い光のついたときが各リズムの第1拍目です。

⑤ テンポコントロール (TEMPO)

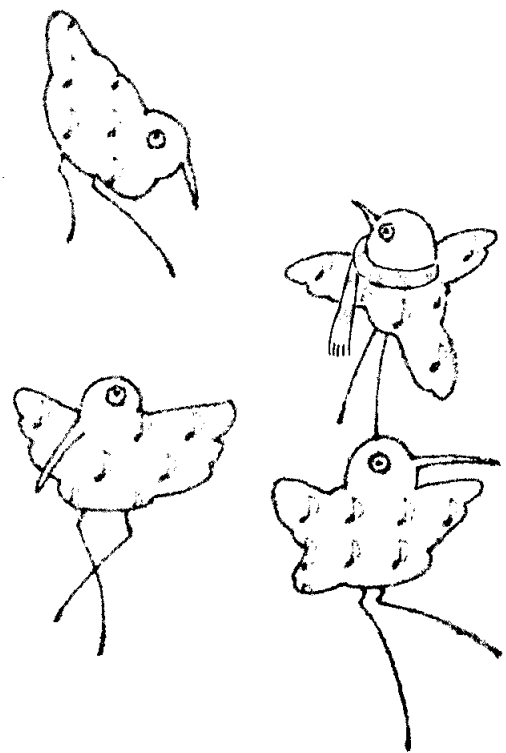
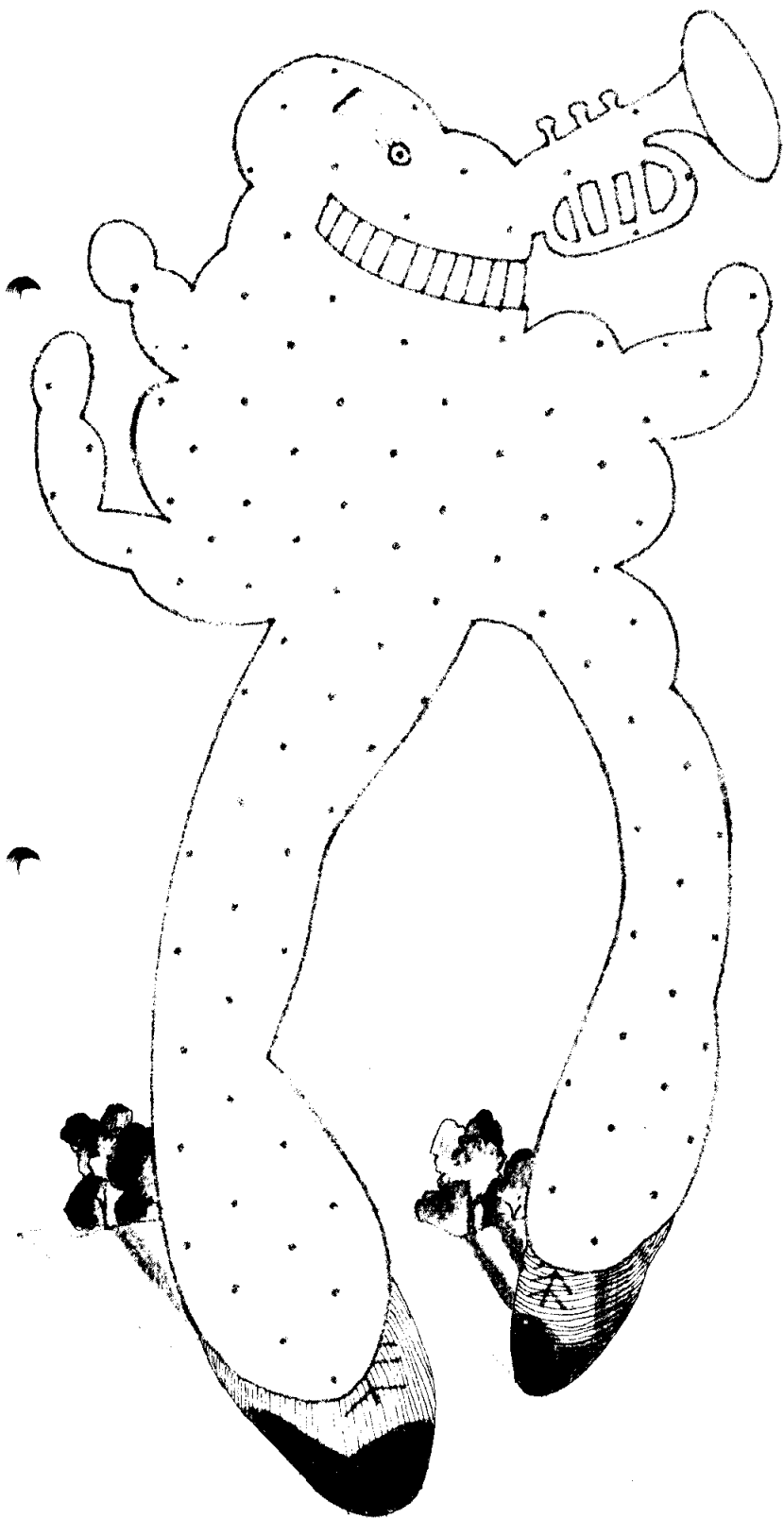
リズムの速さを調節できます。

⑥ オートリズムバランス (BALANCE)

ツマミを右に回すとシンバル系の音が強調され、左に回すとその逆になってバスドラムなどの太鼓の音が強調されます。

⑦ オートリズムボリューム (VOLUME)

鍵盤の音とリズム音とのボリュームのバランスをとることができます。なお、オートリズムの音量は、エクスプレッションペダルによっても変化がつけられます。



オートベース/コード

下鍵盤のキーをおさえるだけで、下鍵盤とペダル鍵盤の音の和音伴奏がつくれ、さらにオートリズムと連動して自動的にきざまれる「自動伴奏」効果です。ただし自動伴奏の下鍵盤の伴奏はオーケストラ系の音色によってきざまれるので、あらかじめ下鍵盤のオーケストラ系音色をセットしておく必要があります。(下鍵盤のフルート系音色は自動伴奏にはなりません、持続音としてバックに流すのも効果的です)

オートベース/コードのセットのしかた

●左手の指1本でリズム伴奏をつけたいとき。

①まずオートリズムでお好きなリズムをセットしておきます。

②次にSINGLE FINGER CHORDのボタンを押します。

あとは下鍵盤の音をひとつおさえるだけで、その音を基音にしたメジャーコードの和音伴奏がセットしたオートリズムにあわせてきざまれます。和音は、押した鍵盤の音域と同じ音域のものが出ます。

おさえた鍵盤と伴奏和音との関係

中央ド (C₃)

下鍵盤のこの音をおさえると

自動伴奏は次のように...

下鍵盤の音

ペダル鍵盤の音

コードはこのようになります。

※この図は、下鍵盤の中央音域をおさえたときの例です。

③この伴奏和音をセブンスコードにしたいときは、下鍵盤をおさえながらペダル鍵盤の白鍵をどれでもひとつ踏むとコードが変わります。マイナーコードにしたい場合は、ペダル鍵盤の黒鍵を踏みます。

④また、さらにMEMORYボタンを押しておくとも自動伴奏をメモリーすることができます。この場合、伴奏のコードが変わるときだけ、そのコードの基音となる鍵盤を押せばよいわけです。

●おさえたとおりの和音でリズム伴奏をつけたいとき。

オートリズムをセットし、次にFINGERED CHORDのボタンを押してください。このようにして下鍵盤で和音をおさえると、その和音の音でリズム伴奏がきざまれます。また、MEMORYボタンを押しておけばベース音とリズムをメモリーすることができます。

●下鍵盤の音とペダル鍵盤の音に別々に自動伴奏をかけたいとき。CUSTOMのボタンを押してください。このボタンを押しておくとも、下鍵盤の音(オーケストラ系音色)は、おさえたとおりの和音で伴奏がきざまれ、ペダル鍵盤の音については踏んだ音を基音にしたコードの伴奏が自動的にきざまれます。この場合、ペダル鍵盤の音は、下鍵盤でおさえた音がメジャーのときにはメジャーに、マイナーのときはマイナーにと変化します。

また、このとき、左手の伴奏を自動伴奏ではなく自由なパターンにしたいときは、下鍵盤の音をフルート系音色のみにセットして自由に弾くことができます。

MEMORYボタンを同時に押すと、ベース音をメモリーすることができます。

●オートリズムとの連動をキャンセルしたいとき。

CONSTANTのボタンを押してください。コンスタントは、SINGLE FINGER CHORDまたはFINGERED CHORDとあわせてお使いいただくボタンで、オートリズムとの連動をキャンセルするはたらきをします。下鍵盤を押すとベースを伴った和音が持続音ででてきます。(但し減衰タイプのベース音の場合は、ベース音は途中で減衰してしまいます。)

NOTE



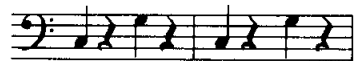






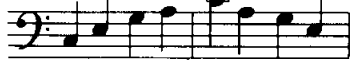
●オートリズムがシンクロスタートでセットされている場合は、下鍵盤を離すとオートベースコード、オートリズム共にストップし、再び下鍵盤(CUSTOM/ABCの場合はペダル鍵盤でも可)を押すとスタートします。

●ベース音に変化をつけたいとき。



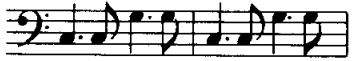




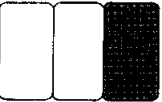

自動伴奏のとき、BASS VARIATIONのボタンをNORMALにセットしておくとし、ベース音はリズムの種類によってあらかじめセットされたものが出てきます。このベース音は、BASS

VARIATIONボタンの1または2をセットすることによって、次の例のようにペダル鍵盤の音（ベース音）がウォーキングベースの感じになります。

例1. SWINGのベース音の変化(Cコードの場合)

	このボタンをセットすると		ベース音は
1	リズムセレクター SWING 	ベースバリエーションNORMAL 	
2	リズムセレクター SWING 	ベースバリエーション II 	
3	リズムセレクター SWING 	リズムバリエーション  ベースバリエーション I 	

例2. JAZZ ROCK Iのベース音の変化(Cコードの場合)

1	リズムセレクター JAZZ ROCK I 	ベースバリエーションNORMAL 	
2	リズムセレクター JAZZ ROCK I 	ベースバリエーション I 	
3	リズムセレクター JAZZ ROCK I 	ベースバリエーション II 	

●普通の演奏に切かえるときは。

かならずオートベース/コードのNORMALボタンを押しておいてください。このボタンを押して（又はオートベース/コードの他のボタンが上ってないと）おかないとペダル鍵盤の音は出ません。

●フットスイッチについて。

リズムストップを入れておいて演奏中、足先でフットスイッ

チを操作すると自動伴奏がストップします。ですがもう一度フットスイッチを操作すると、再びもとの自動伴奏がスタートします。

オートアルペジオ

アルペジオは、同じ音をくり返して演奏するという、ひとつの分散和音的装飾音効果です。

オートアルペジオには、オートリズムと連動させて使う方法と、連動させないで独立させて使う方法(FREE)、そしてオートベース/コードに連動させる方法の3通りの使いかたがあります。オートアルペジオは下鍵盤の音のみにかかる効果で、手は原則的におさえつづけるという弾きかたをします。

アルペジオ関係の機能説明と基本的なセットの順序

① FLUTE, ORCHESTRA タブレット

アルペジオ効果は、フルート系の音色とオーケストラ系の音色にかけわけることができます。タブレットを組み合わせれば両方の音色にかけられることもできます。

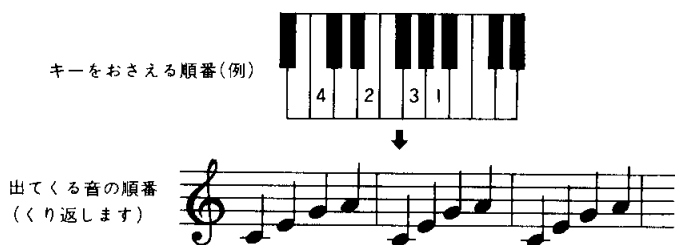
② SYNCHRO・FREE タブレット

オートリズムと連動させないときは、このタブレットをFREEにセットします。

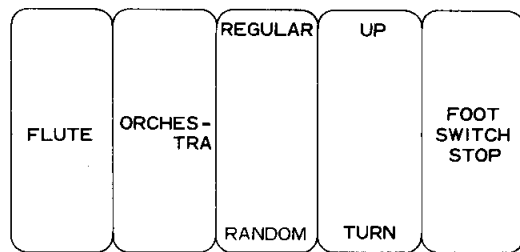
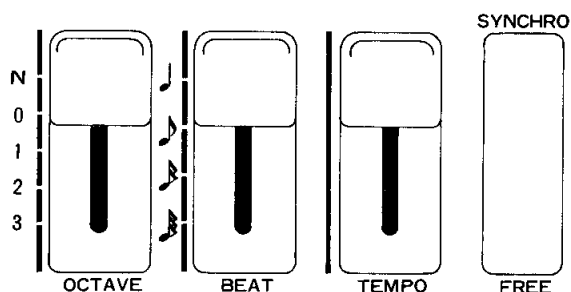
③ REGULAR・RANDOM タブレット

REGULARの場合のアルペジオ効果

おさえた音を単音でくり返します。同時に2つ以上のキーをおさえた場合は、低いキーの音から先に単音でくり返されます。



条件: OCTAVEレバー 0
: BEATレバー 1



RANDOMの場合のアルペジオ効果

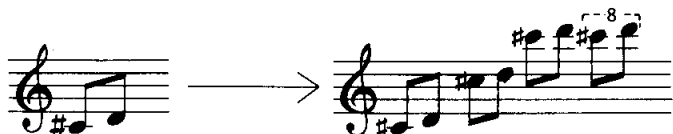
おさえた音が、●おさえた順番●おさえたタイミングともそのまま(つまりおさえたときの音の状態をそのままいかにして)くり返されます。和音、分散和音、トレモロなどを弾いた場合も、同じです。



条件: RANDOMタブレット・ON
FREEタブレット・ON OCTAVEレバー・N



条件: RANDOMタブレット・ON
FREEタブレット・ON OCTAVEレバー・2



条件: RANDOMタブレット・ON
FREEタブレット・ON OCTAVEレバー・3

④ TEMPOレバー

アルペジオの速さをコントロールするレバーで、FREEタブレットとあわせて使います。レバーを手前に引くほどテンポが速くなります。(REGULARの時のテンポはオートリズムのテンポボリュームに連動)

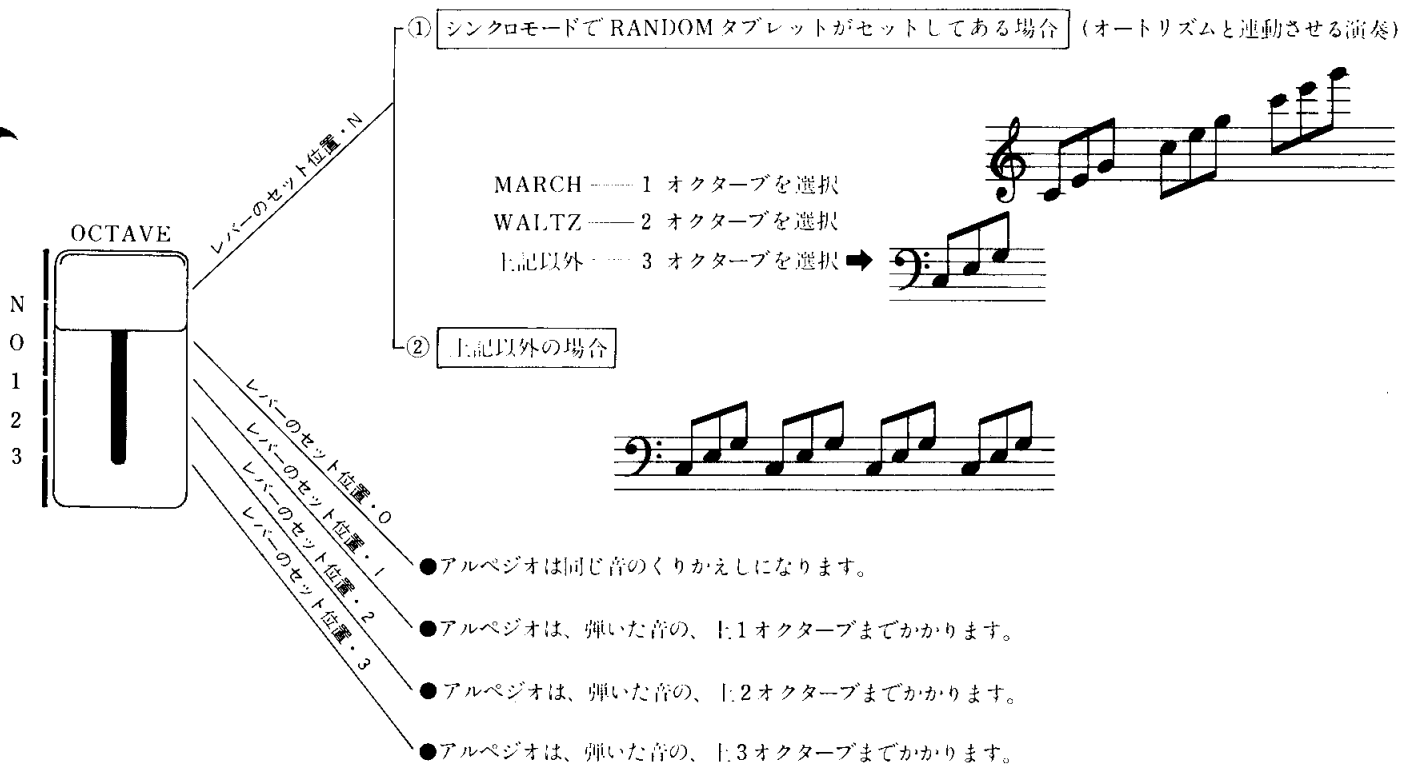
⑤ BEATレバー

同じテンポのアルペジオでも、ビートを変えることによってかなりイメージが変わります。このレバーでアルペジオをきざむ基本となる音の長さをセットすることができます。

⑥ OCTAVEレバー

何オクターブの範囲にアルペジオ効果を加えるかを決め、セットするレバーです。レバーの位置によってアルペジオ効果は次のような音域内で表現されます。ただし、レバー位置がNの場合は、他のタブレット(FREEあるいはRANDOM)との関連によって、アルペジオ効果のかかる音域が異なってきます。

たとえば左手でこのような音  のアルペジオをつくった場合。



⑦ UP・TURNタブレット

このタブレットがそのまま(UP)のとき、アルペジオ効果はOCTAVEレバーでセットした音域まで下から上へとかかります。タブレットをTURNにセットすると、アルペジオは、OCTAVEレバーでセットした最上音域まで上り、そのあともとの音域までまたもどってきます。

たとえば下鍵盤でこの音をおさえると



①条件：RANDOMタブレット・ON

FREEタブレット・ON OCTAVEレバー・2の場合

★UPの場合



★TURNの場合



②条件：REGULARタブレット・ON

FREEタブレット・ON OCTAVEレバー・1の場合

★UPの場合



★TURNの場合



⑧ FOOT SWITCH STOPタブレット

このタブレットを入れておいてフットスイッチを操作するとアルペジオ効果がキャンセルされます。フットスイッチを再び操作しますと、もとのアルペジオ効果がかかります。

オートアルペジオ演奏のいろいろ

1. アルペジオのFREE演奏

アルペジオ効果をオートリズムに連動させない、自由な演奏です。

①FLUTE ON、ORCHESTRA ONのタブレットを操作して、アルペジオをどの音色にかけるか決めます。

②FREEタブレットを入れます。

③アルペジオ効果をREGULARにするかRANDOMにするか決めます。

④アルペジオ効果をUPにするかTURNにするか決めます。

⑤テンポを決めます。

⑥ビートを決めます。

⑦オクターブのセットをします。

2. アルペジオのオートリズム演奏

オートリズムと連動させる演奏です。

①まず、オートリズムをセットしておきます。

②オートリズムとオートアルペジオを同時に(同じテンポで)スタートさせるため、オートリズムのSYNCHRO STARTタブレットをあらかじめ入れておきます。このタブレットをセットしておかない場合は、〈アルペジオをスタートさせるタイミングを、指でオートリズムのテンポの第1拍目にあわせる〉という方法になります。

③FLUTE・ORCHESTRA タブレットを操作して、アルペジオをどの音色にかけるか決めます。

④アルペジオ効果をREGULARにするかRANDOMにするか決めます。

⑤アルペジオ効果をUPにするかTURNにするか決めます。

⑥ビートを決めます。

⑦オクターブのセットをします。

3. アルペジオのオートベース/コード演奏

オートベース/コードと連動させる演奏です。

①オートベース/コードと連動させると、下鍵盤のオーケストラ系音色は自動伴奏をきざむための音として使われてしまいます。そこでアルペジオ効果にかけるために、あらかじめフルート系音色をトーンレバーでセットしておきます。同時にアルペジオ効果のFLUTE タブレットをONにします。

②オートリズムをセットし、SYNCHRO STARTタブレットを入れます。

③アルペジオ効果をREGULARにするかRANDOMにするか決めます。

④アルペジオ効果をUPにするかTURNにするか決めます。

⑤ビートを決めます。

⑥オクターブのセットをします。

⑦アルペジオ効果をメモリーさせたい場合は、SINGLE FINGER CHORDボタンを押し、さらにMEMORYボタンを押して演奏します。



NOTE

●オートアルペジオ効果では、下鍵盤のフルート系音色は自動的に減衰音となります。

●アルペジオ効果は、フルート系音色とオーケストラ系音色に同時にかけることができます。

●アルペジオをかけるときのオーケストラ系音色は、ピアノ、ハーブなどのようにあらかじめ減衰効果をもった音色のほうが効果的です。

エレクトーン棚板下の付属端子



●パネル/ペダル・ライトスイッチ

スイッチを入れると、エレクトーンの鍵盤部（手鍵盤と足鍵盤）を照らすライトが点灯します。暗い場内でも、確かな、そしてムードある演奏ができます。また、スイッチを手前に入れると明るく、奥に入れると暗くなります。（E-50はパネルライトのみです）

●ヘッドホンジャック

夜間の練習などには、エチケットの上方からもぜひヘッドホンをご利用ください。

●EXP-IN(EXP連動入力)端子

リズムボックス、シンセサイザーなどを接続しますと、エレクトーンのエクスプレッションペダルで音量変化をつけながら演奏することができます。（入力インピーダンス47kΩ、最大入力レベル-19dBm）

●AUX-IN(ライン入力)端子

ステレオやテープレコーダーと接続し、レコードやテープの曲をエレクトーンのスピーカーから流して共演することができます。（入力インピーダンス27kΩ、最大入力レベル-10dBm）

●AUX-OUT(ライン出力)端子

テープレコーダーに録音したり、他のアンプと接続して音出しする場合に利用します。（出力インピーダンス470Ω、最大出力レベル-5dBm）

トーンキャビネットコネクター



演奏会、発表会などの際に、トーンキャビネットを接続すれば、よりダイナミックなサウンドが得られます。

SPLIT：電子トレモロ効果内蔵の新型トーンキャビネットに接続でき、フルート系、オーケストラ系それぞれ独立してトレモロ/コーラス効果がかけられます。

GENERAL：R-60B型等のトレモロ付トーンキャビネットに接続し、アッパーフルートのタブレットをON(ROTARY側)すると上鍵盤、下鍵盤のフルート系、オーケストラ系すべての音色にトレモロ/コーラス効果がかけられます。

LESLIE：レスリースピーカー(700型及び710型)に直接、接続できます。

音の「エチケット・コントロール」を心がけましょう。

私たちの日常生活と音とは切ってもきれない関係にあります。機械のガーッという音も、エレクトーンの美しい音色もみんな音の仲間。でも、私たちはひとりで暮らしているわけではありません。家族や隣人どうし、みんな助けあって生きているのです。ですから音に関しても、おたがいに譲りあい、やさしい心づかいを示してあげることがたいせつです。美しい音楽を愛すると同時に、住みよい環境を私たち自身の手でつくりあげてまいりましょう。

エレクトーンは、ヘッドホンが使えます。

ヤマハエレクトーンには、どの機種にもヘッドホンジャックがついており、ここからヘッドホンに接続することができます。とくに楽器専用に開発された、ヤマハ・オルソダイナミックヘッドホン(HP-50A)は、かろやかな装着感と、クリアな音質が特長。エレクトーン本来の音色を存分にお楽しみいただけます。

楽器専用(モノラル)

オルソ・ダイナミック・ヘッドホン

HP-50A(¥5,000)

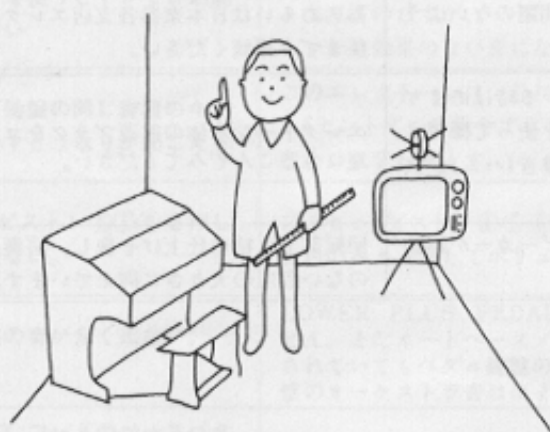


●ヘッドホンの価格・性能等は55年9月現在のものです。

楽器のお手入れ法

一般的に他の楽器、例えばピアノとかオルガンと同じ取り扱いをしていただければ、ほとんど問題はありませんが、特に電気部品を使用していますから、次の点にご注意ください。

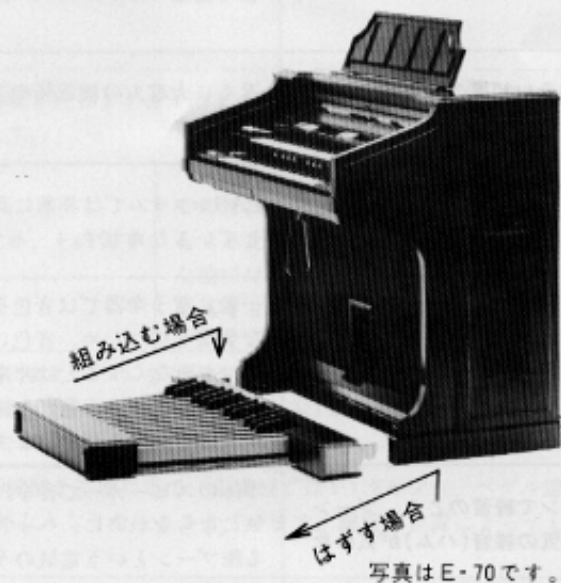
1. 使用後は電源スイッチを切り忘れないようにしてください。
2. 日光の直射する所に置きますと色があせたり、木材の接着部分がはがれる恐れがありますからなるべく避けてください。
3. その他、湿気の多い所、暖房装置の近くは避けてください。
4. 楽器の上にものをのせないでください。
5. エレクトーンの鍵盤クリーニングには、水がたれない程度に絞った中性洗剤等に浸した布で拭き取って頂き、シンナーやアルコール等の薬品は絶対に使用しないで下さい。
6. テレビやラジオをエレクトーンに近接してご使用の時、テレビやラジオに雑音が入る等の影響を及ぼすことがあります。このような場合は、エレクトーンから1m位離してご使用ください。(エレクトーンに電気が入ってないときは影響しません。)
7. 外装の塗料はビニールと化学反応をおこしますので、ビニール製品をのせないようにしてください。



ペダル鍵盤の取扱い方法

エレクトーンE-70・E-50のペダル鍵盤はユニットになっており、取りはずすことができます。取りはずし、または取り付けの際には、次の様な方法で行なってください。

1. かならず2人で持つようにして決して無理な力をかけないようにしてください。
2. 取り付けの際は、そのまま押し込むのではなく、下図の矢印の方向に少し持ち上げて、はめ込むようにしてください。
3. 取りはずしの際には、最初少し持ち上げてから引き出すようにします。
4. 取り付け、取りはずしは、本体にキズをつけない様にご注意下さい。



次の現象は故障ではありません

スイッチを入れた瞬間、ボンと音がする	メインアンプ内部に電気が流れたため	エレクトーンが作動する証拠です。ご心配入りません。
ペダル鍵盤は同時に2音を押しても1音しか出ない	ペダルサステインをかけたときに、前の音と後の音がまざってきた音にならないよう、後の音を押した瞬間に前の音が消えるしくみになっています。	同時に2音を押すと高音の方のみ音が出ます(高音優先)。
音が割れる(共鳴する、あるいはビビる)	エレクトーンの音は持続音ですから、周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴することが多くあります。	①音量を小さくする。 ②共鳴物を取り除く。
時々雑音が入る(ガリッとかポツンという雑音)	①家庭の電気冷蔵庫、洗濯機など電気器具の電源入、切り時。 ②市街地のネオンサインの故障、電気ドリルなど。	①原因と思われる機器からなるべく離れたコンセントを使う。 ②原因不明あるいはご不審の点は日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談ください。
ラジオやテレビ等の電波が入るときがある	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるとき。	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談ください。
極めて少ないケースに近くのラジオ、テレビ、ワイヤレスマイク等に障害を起す場合がある	PASシステムでは非常に高い周波数信号を使用しているためです。	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店電気楽器サービス係までご相談ください。
トーンレバーによって、鍵盤位置による音量のバラツキがある	一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすことは非常に困難です。エレクトーンではどの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。	音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあるので、どうしても気になる時はお求めの楽器店あるいは日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談ください。
ヘッドホンで練習のとき、ブーンという電気の雑音(ハム)が気になる	本体のスピーカーで音を出している時はあまり気にならないのに、ヘッドホンを使って練習する際ブーンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがあります。	エレクトーン本体の電源プラグをコンセントへ逆にさしこんでみてください。
トレモロを作動した時に作動音が出る	内部に組み込まれている回転スピーカーが作動して出る回転音です。	回転部分に精密仕上げを施し、演奏上には支障のない程度の大きさに抑えています。

<p>ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる</p>	<p>特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律するので、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。</p>	
<p>電源を入れたまま振動やショックを与えると雑音が出る</p>	<p>内蔵のリバーブレーション装置に柔らかいスプリングを使用しているため、振動が伝わるためです。</p>	<p>①使用中は、大きな振動やショックを与えないようにしてください。 ②エレクトーンはぐらつかないように設置してください。 ③移動する時は、電源スイッチを切るか、リバーブペダルを左に回してリバーブがかからないようにしてから移動してください。</p>
<p>上鍵盤のオーケストラ系音色をセットし、8音おさえたが7音しか出ない</p>	<p>オーケストラ系音色は上下鍵盤あわせて7音しか出ませんので、それ以上の数の鍵盤を押してもオーケストラ系音色は出ません。</p>	
<p>この場合、下鍵盤は3音しか出ません。</p>	<p>このエレクトーンは上下鍵盤あわせて11音まで音が出ますので、上鍵盤で8音押している場合は、下鍵盤は残りの3音のみ音が出ます。</p>	
<p>フルートレスポンスを入れると、音が出る時、ブツという音が入る</p>	<p>音の立ち上がり時間が早くなるため、その切りかわり時点で発生するものです。</p>	<p>この音はクリックと呼ばれ、このような効果をねらったものです。スローテンポでムーディーな曲には合いませんが、パンチのきいた曲には貴重なものです。</p>
<p>ヘッドホンを使うとトレモロ効果がかからない</p>	<p>トレモロ効果は、スピーカーの前にあるドラムを回転させて音を“ふりまき”、独特の雰囲気を作り出すものですが、ヘッドホンを使った場合はスピーカーの信号(楽音)が遮断されてしまうためにトレモロ効果のない音になります。</p>	
<p>上鍵盤と下鍵盤の同じ音程のキーを同時におすとうなりが聞こえる</p>	<p>このエレクトーンは、最初から下鍵盤を基準にして、上鍵盤では+1.6セント、ペダル鍵盤では-1.6セントずつ音程をずらして自然なうなりを生じさせています。鍵盤の位置によってもうなりの度合いは変わります。</p>	
<p>プリセットピストン④⑤⑥を押しても音が出ない。</p>	<p>プリセットピストン④⑤⑥は、フルート系、オーケストラ系のボリュームもセットできますので、音色のみセットしてボリュームが最小の場合、音は出ません。</p>	
<p>ペダル鍵盤の音がかく出ない。</p>	<p>LOWER PLUS PEDALのカプラータブレットがONされていると、ペダル鍵盤の音は全く出ません。またオートベース/コードのシングルフィンガーコード、フィンガードコードボタンがONされていてもペダル鍵盤の音は出ません。(UPPER PLUS LOWERタブレットONの場合、下鍵盤のオーケストラ音は出ません。)</p>	
<p>オートベース/コードのベースパターンが変則的な動きをする場合がある。</p>	<p>オートリズムのリズムパターンが2つ以上組み合わせられているためです。</p>	<p>オートリズムのリズムパターンを1つにして下さい。</p>

保証とアフターサービス

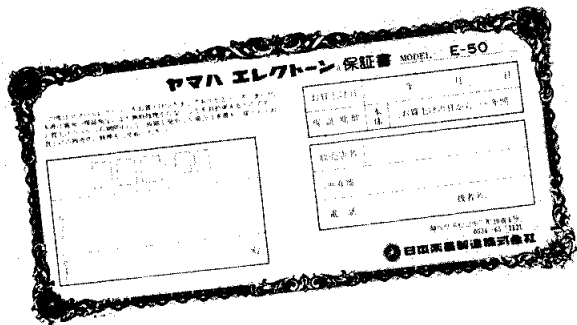
保証

エレクトーンの場合は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンの内裏にありますが保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの様子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけ下さるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いした時に今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめ下さい。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(28～29ページの「次のような現象は故障ではありません」参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせ下さい。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えば、あらかじめ用意する部品などの見当がつき、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせ下さい。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音が出る●エレクトーンの音を出さなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせ下さい。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせ下さい。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく正確に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちなお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記お問い合わせ先にご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハのサービス網

全国のヤマハ特約楽器店と下記日本楽器支店が責任をもってアフターサービスを行なっております。

●お問い合わせ先

本 社／浜松市中沢町10-1・電音サービス課
☎(0534)65-1111

北海道支店／札幌市中央区南十条西1-4・電音サービス係
☎(011)512-6111

仙台支店／仙台市原町南目薬師堂北2-1・電音サービス係
☎(0222)95-6111

千葉支店／千葉市千葉港2-1千葉中央コミュニティセンター内・
電音サービス係 ☎(0472)47-6611

関東支店／高崎市歌川町8番地高崎センター内・電音サ
ービス係 ☎(0273)27-3366

東京支店／東京都中央区銀座7-9-18パールビル内・電音サ
ービス係 ☎(03)572-3111

横浜支店／横浜市中区本町6-61-1・電音サービス係
☎(045)212-3111

浜松支店／浜松市幸町3丁目5-8・電音サービス係
☎(0534)74-0311

北陸支店／金沢市泉本町7-7・電音サービス係
☎(0762)43-6111

名古屋支店／名古屋市中区錦1-18-28・電音サービス係
☎(052)201-5141

大阪支店／大阪府吹田市新芦屋下1-16・電音サービス係
☎(06)877-5151

神戸支店／神戸市葺合区浜辺通り6丁目1-36・電音サ
ービス係 ☎(078)232-1111

広島支店／広島市安佐南区祇園町西原862・電音サービス係
☎(08287)4-3787

四国支店／高松市西宝町2丁目6-44・電音サービス係
☎(0878)33-2233

九州支店／福岡市博多区博多駅前2-11-4・電音サービス係
☎(092)472-2151

仕様と音域表

E-70・E-50仕様 (*印はE-70のみです。)

●鍵盤

上鍵盤：61鍵，5オクターブ(C₄～c₅)

下鍵盤：61鍵，5オクターブ(C₄～c₄)

ペダル鍵盤：25鍵，2オクターブ(C₁～c₂)

●トーンレバー

上鍵盤：フルート音=16', 8', 5 1/8', 4', 2 3/4', 2', *1 1/2', *1 1/8', *1'
アタック音=4', 2 3/4', *2'

ソロトーン=チャイム，ビブラホン

下鍵盤：フルート音=*16', 8', 4', 2 3/4', 2'

アタック音=*4', *2'

ペダル鍵盤：バス音=16', 8', *4'

●トーンセレクター

上鍵盤=フルート，*クラリネット，トロンボーン，トランペット，*ポストホルン，サクソフォン，オーボエ，*キヌラ，バイオリン，*ストリング，ピアノ，ハーブシコード，ジャズギター，*エレクトリックギター，*バンジョー，ハーブ，ファニーI，ファニーII

下鍵盤=フルート，*ディアパソン，トロンボーン，ホルン，チェロ，*ストリング，ピアノ，ハーブ，ギター，*エレクトリックギター，ファニーI，*ファニーII

ペダル鍵盤：*ディアパソン，*バスクラリネット，チューバ，トロンボーン，ポウドラム，ストリングバス，*ピアノ，*ハーブシコード，バスギターI，バスギターII，*ファニーI，*ファニーII

●音色プリセット

プリセットピストン①②③④⑤⑥

プリセットボード

ピストンキャンセル

●コントロール(エフェクト)レバーおよびツマミ

ブリリアンス，アタックリビート，アタックレングス，パーカッション：ローアブラシシンバル・ローアスネアブラシ・ペダルシンバル，ビブラート：タッチ・ディレイ・デプス・スピード，*アタックピッチ(タイム)：アッパー(アッパーグライド)・ローア・ペダル，ブライツ，リビートスピード，トランスポジションI*II，リバーブ，ペダルサステイン，アッパーサステイン，ローアサステイン，フルートセレステ：アッパー・ローア・ペダル，オーケストラセレステ：アッパー・ローア・ペダル (E-50のセレステは、フルート&オーケストラセレステ：アッパー，ローア，ペダル)

●タブレット

アタックピッチ：アッパー・ローア・ペダル，*カプラー：アッパープラスローア・ローアプラスペダル，ワウワウ：アッパーフルートワウワウ・アッパーオーケストラワウワウ，アッパーサステイン，ローアサステイン，アッパーピストンキ

ャンセル，アッパーフルートパーカッションディレイ，アッパー&ローアフルートレスポンス，アッパーグライド，アッパー&ローアダンプ，リズムストップ，トレモロ・コーラス：ローアオーケストラ・ローアフルート・アッパーオーケストラ・アッパーフルート・トレモロ，コーラス

●オートリズム

リズムセレクター：マーチ・ワルツ・スイング・バラード・スローロック・ジャズロックI・ジャズロックII・ボレロ・タンゴ・ビギン・ルンバ・マンボ・ボサノバ・サンバ・バリエーション，リズムスタート，シンクロススタート，テンポインジケータランプ，テンポコントロール，オートリズムボリューム，オートリズムバランス

●オートベースコード

セレクターズ：ノーマル・シングルフィンガーコード・フィンガードコード・カスタム・コンスタント・メモリー，ベースバリエーション：1・2・ノーマル

●オートアルペジオ

タブレット：フルート・オーケストラ・レギュラー&ランダム・アップ&ターン・フットスイッチストップ・シンクロ&フリー，レバー：テンポ・ビート・オクターブ，テンポランプ

●その他

マスターボリューム，オーケストラボリューム，フルートボリューム，マニュアルバランス，*ペダルダイナミックレンジコントロール，トレモロスピード，エクスペッションペダル，フットスイッチ，ニーレバー，パワースイッチ，インジケータランプ，EXP-INジャック，AUX-INジャック，AUX-OUTジャック，ヘッドホンジャック，ペダル/パネルライトスイッチ(E-50はパネルライトのみ)，トーンキャビネットコネクター：ジェネラル・スプリット・レスリー

●アンプ

メインアンプ60W，トレモロアンプ60W

●スピーカー

メインスピーカー：38cm，20cm，5cm各1

トレモロスピーカー：20cm(E-50は16cm)

●定格電圧 100V，定格消費電力 260W(E-50は220W)

定格周波数 50/60Hz

●寸法

間口 131cm

奥行 76cm

高さ 110cm

重量 178kg(E-50は176kg)

●蓋・スライド式

●外装

アメリカンウォルナット

●仕様はやむを得ず変更する場合があります。

音域表
(E-70・E-50共通)

The diagram illustrates the pitch range of a piano. At the top, a standard piano keyboard is shown with labels C, c, c₁, c₂, c₃, and c₄ under the white keys. Below this, three musical staves are shown: a treble clef staff, a grand staff (treble and bass clefs), and a separate bass clef staff. The notes on the staves are connected to the keyboard by vertical dashed lines. A dashed line labeled '8 Va' indicates an octave transposition. At the bottom, a smaller keyboard is shown with labels C, D, E, F, G, A, B, C, D, E, F, G, A, B, C under the white keys, representing a specific pitch range.

●ペダル鍵盤の16'の音は記載されているより1オクターブ低い音です。

本社・工場／〒430 浜松市中沢町10-1
 TEL 0534(65)1111
 東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
 TEL 03(572)3111
 銀座店／〒104 東京都中央区銀座7-9-14
 TEL 03(572)3131
 渋谷店／〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7
 TEL 03(476)5441
 池袋店／〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2
 TEL 03(981)5271
 横浜支店／〒231 横浜市中区本町6-61-1
 TEL 045(212)3111
 千葉支店／〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内
 TEL 0472(47)6611
 関東支店／〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内
 TEL 0273(27)3366
 大阪支店／〒564 吹田市新芦屋下1-16
 TEL 06(877)5151
 心斎橋店／〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39
 TEL 06(211)8331
 神戸支店／〒651 神戸市葺合区浜辺通6丁目1-36
 TEL 078(232)1111
 四国支店／〒760 高松市西宝町2丁目6-44
 TEL 0878(33)2233
 名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
 TEL 052(201)5141
 北陸支店／〒921 金沢市泉本町7-7
 TEL 0762(43)6111
 九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
 TEL 092(472)2151
 福岡店／〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
 TEL 092(721)7621
 魚町店／〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1
 TEL 093(531)4331
 北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター内
 TEL 011(512)6111
 仙台支店／〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1
 TEL 0222(95)6111
 広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
 TEL 0822(48)4511
 浜松支店／〒430 浜松市田町32
 TEL 0534(54)4115

エレクトーン®は当社の登録商標です。


YAMAHA
 日本楽器製造株式会社